令和7年大会アピール

本日、令和 7 年「北方領土の日」を迎え、我が国固有の領土である択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島、すなわち北方四島の返還実現を求め、「令和7年北方領土返還要求全国大会」を開催しました。

今年はこの北方領土がソ連によって不法占拠され80年となります。何故、島々は返還されないのでしょうか。強い怒りを禁じ得ません。

日露両国は、1956 年に調印した日ソ共同宣言により、国交回復し、以来両国は平和条約の締結に向けた協議を重ねてきました。近年、日露交渉が加速し、返還要求運動の現場では北方領土問題の解決に向けた兆しと期待していましたが、混迷する国際情勢の影響を受け、ロシア政府は平和条約交渉の中止を一方的に通告、30 年以上続けてきた北方四島相互（ビザなし）交流や元島民の北方墓参の中止も通告してきました。

「故郷に戻りたい」とひたすら待ち続けてきた元島民にとっては、途方もなく長い歳月が経過しました。平均年齢は 90 歳を迎えようとし、北方領土問題の解決がこれ以上長引くことを断じて許すわけにはいきません。北方墓参の一刻も早い再開を求めます。

大切な日本固有の領土を奪われることは、国益が損なわれ、さらに我が国周辺の安全に関わる深刻な問題です。国民一人ひとりが自国の問題として関心を高めるとともに、次世代への啓発を進めていくことも、問題解決に向けて不可欠です。

戦後80年という節目の年を迎え、本大会では北方領土問題の解決に向け、官民一体となり、運動に取り組むとの意思統一を確認しました。私たちは、世界平和を祈りつつ、北方四島の返還実現をめざし、次のとおり決意を表明します。

記

一. 日露両国間の関係改善と平和条約締結に向けた交渉の再開を強く求めます

一. 北方墓参の一刻も早い再開を強く求めます

一. 北方四島交流事業の再開を求めます

一. 署名活動をより一層推進します

一. 北方領土に残存する日本の施設などの保存に努めます

一. あらゆる機会を通じ、北方四島の返還こそ日露両国の真の友好関係を築き、ひいては世界平和に寄与するものであることを訴えます

令和7年2月7日　北方領土の日
令和7年北方領土返還要求全国大会